

令和5年2月28日

青梅市立今井小学校保護者の皆様

青梅市立今井小学校  
校長 神尾 健彦

## 令和4年度 青梅市立今井小学校 教育実践報告

令和4年度の今井小学校では「自主・自律の基礎を培う～非認知的能力を育む教育環境の構築～」をスローガンに教育活動を進めてまいりました。新型コロナウイルス感染症の影響も未だある今日ですが、少しずつ学校生活の中でできることも増えてきています。その中で本校が実践してきたことを本校の教育目標および学校経営方針に沿ってご報告いたします。

### ○ 教育目標「思いやりのある子」 ～豊かな心の育成～

#### (1) 挨拶の励行

児童が場や状況に合わせ、すすんで挨拶ができるように取り組んできました。朝会等で学期に1回は「挨拶」にかかわる話を児童にし、それを基に学級担任も挨拶の大切さを児童に伝えてきました。毎朝正門で児童と挨拶を交わっていて、児童が自分から「おはようございます」という児童がととても多いです。児童アンケートの結果でも、92%の児童が挨拶に関しては肯定的な回答をしています。一方、代表委員会が年2回実施したあいさつ運動では、まだまだ児童同士の挨拶が十分ではありませんでした。誰に対しても積極的に挨拶ができるようにしていくことが求められます。今後も継続してすすんで明るく挨拶ができるように取り組んでいきます。

#### (2) いじめの防止

児童が思いやりの気持ちを持ち、自他ともに大切にしようとする心情を育ててきました。道徳でいじめについて考える時間を設定するとともに、日頃の教育活動全般で人権意識を育む指導を行ってきました。いじめの防止としては、年間4回のいじめ調査を実施するとともに日頃から教職員が児童と接する中での気付き、保護者からの情報などからいじめの早期発見に努めました。保護者・児童から訴えがあったものに関しては、青梅市教育委員会に報告をしました。担任を中心に生活指導主任、管理職で情報を共有し、児童どうしで解決できるもの、保護者の協力を得ながら解決を図るもの、全体指導が必要なものなど組織として判断し早期対応をし、訴えがあったものに関しては現在解決しています。ただ、児童の心の中でのわだかまりや負の感情がすべて解消したとは考えていません。継続的に見守るとともに、スクールカウンセラーを活用した相談体制の強化を行っていきます。

#### (3) 異学年の集団活動

「なかよし班活動」で一緒に活動をしたり、学校行事の中で異学年の取組を見たりするなかで、自身の役割を自覚したり、高学年へのあこがれをもったりすることができるように取り組んできました。その中で、活動に対する自分自身の目標やめあてを設定し、終了後に振り返るという活動を

重視してきました。90%の児童が行事や活動を通して成長を実感しているというアンケート結果でした。

## ○ 教育目標「自ら学び考える子」 ～学力の向上～

### (1) 基礎・基本の定着

学習した内容を8割以上定着させることを目標に取り組んできました。学校としての取組である「アフタースクール」や青梅市としての取組である「ステップアップクラス」を実施し、基礎・基本の定着を図りました。また、算数では3年生以上で習熟度別指導を行い、定着に時間のかかる児童にも丁寧に指導をしてきました。児童アンケートでも、91%の児童が自身の学力の向上を肯定的にとらえています。一方、教職員は24%が変化の兆しはあるが不十分な部分があるとしています。中学校での学びへの接続を意識し、必要な学習内容の定着のための取組を推進していきます。

### (2) ICTの活用

ICT機器を学習用具として使い、学習したことを整理したり深めたりすることができるように取り組んできました。教職員は日常的に一人1台の端末を活用した学習活動を行っています。児童アンケートでも95%の児童が活用に対して肯定的な回答をしています。ただ、学級によっての活用状況の差は見られます。今後は、どの学級でも効果的な活用ができるようにしていきます。

### (3) 家庭学習の習慣化

すべての児童が家庭で学習する時間を確保するように取り組んできました。学期はじめに「家庭学習がんばり週間」を設定し、習慣化できるようにしてきました。今年度は「自ら学ぶ」家庭学習への意識改革をめざして取り組んできました。興味・関心に基づいた学習だけでなく、目標をもって計画的に今自分に必要な学習ができる児童はまだ多くはありません。高学年での家庭学習の習慣は、中学校での学習に直結してきます。児童が自分で計画し自ら学ぶことのできるよう家庭学習の充実を図っていきます。

## ○ 教育目標「心身ともに健康な子」 ～健康な体～

### (1) 体育的活動の充実

児童が自分の体力を向上させようと、運動に親しみ、外遊びをして体を動かす習慣が身に付くように取り組んできました。「なわとび週間」では、全校の児童が校庭でなわとびに取り組み、なわとび週間が終わっても、練習する姿が見られました。「マラソン週間」も今年度は実施いたしました。ここでも、自ら目標をもちそれに向かって意欲的に取り組む姿が見られました。体力調査の結果としては、持久力や俊敏性が、全国平均よりも低い傾向があります。日常的な活動の中で向上を図ります。体育の学習では、授業の工夫を通して体育があまり得意でなく好きではない児童も楽しみながら学習に取り組むことができます。

### (2) 新型コロナウイルス感染拡大防止

今井小ガイドラインに沿った取り組みをしてきました。教職員も児童も意識を高くもち実践する

ことができました。今後、マスクの取扱い、給食の方法、健康観察などについては、感染症法上の分類の変更とともに見直していく予定でいます。また、東京都や青梅市の方針が定まったところで、周知していきます。

### (3) 生活習慣の見直し

全国学力・学習状況調査での児童質問紙の回答から、今井小の児童は、TVやゲーム、スマホなどの使用時間が全国や都の平均と比べて長い傾向があります。このことは、睡眠時間や学習時間が短くなったり、家庭内でのコミュニケーションが不足気味になったりという弊害が生まれます。児童は、自分をコントロールする力がまだまだ未熟です。児童がコントロールできないときは大人が適切にコントロールすることが必要です。来年度に向けて、児童のメディアとの関わり方を見直す機会を学校でも考えていきます。保護者の皆様にもご協力お願いします。

## ○ そのほかの重点項目

### (1) 地域・家庭との連携

今年度はほぼ予定通りに保護者の方が参観できる行事を実施することができました。4月の「道徳授業地区公開講座」、6月の「運動会」、1月の「造形展」では実際に児童の活動の様子を見ていただく機会を設けることができました。「今井小フェスタ」に関しては、保護者の参観をご遠慮いただきましたが、行事の性質上、来年度以降も児童のみでの実施を計画しております。また、「運動会」に関しても、児童の疲労の状況、熱中症への対応も鑑みて、来年度以降も午前中のみの実施で、昼食をとらずに下校といたします。

今年度は「霞川学習」を複数の学年で計画して行うことができました。3・4年生では霞川の水生生物の観察を行い、5・6年生では、霞川流域の農業体験として「田植え・稲刈り」を実施しました。どちらも地域の方、保護者の方に多大なるご協力をいただきました。今後はさらに拡充を目指しています。その一つとして、来年度は、3・4年生で「霞丘陵ハイキング」を計画しています。

### (2) 教師の働き方改革（児童と関わる時間の創造）

教師が児童と元気に明るく接し、充実した教育活動を行うためには、教師の心身の健康が第一と考えています。教師の時間的余裕や心理的余裕を確保し、より児童と関わり、児童を理解し、児童に寄り添うことができるように可能な範囲での改革を進めてきました。年度途中でありましたが、通知表「あゆみ」の様式変更も致しました。ご理解ありがとうございます。